

漢法苞徳塾資料	No. 239
区分	治療論・配穴
タイトル	配穴の参考 解熱・発汗の法
著者	八木素萌
作成日	1993.12.13 現在・未完

## ★解熱穴

## イ. 竇桂芳『流注指要賦』

……夫レ傷寒熱病ノ汗出<sup>いて</sup>ザルハ、榮衛交ワラズ陰要和セザルノ故ニ汗出ザルナリ、<sup>まさ</sup>当ニ結ヲ解イテ汗ニ雪<sup>そそ</sup>グベシ、ソノ経絡ヲ通ジ其ノ陰ト陽ヲ和セバ、汗出ズルヲ得セシム。手ノ陽明ニ商陽ト合谷有リ、手ノ太陽ニ腕骨ト陽谷アリ、足ノ少陽ニ俠谿有リ、足ノ陽明ニ厲兌有リ、手ノ厥陰ニ勞宮有リ、凡ソ此ノ七穴ハ<sup>みな</sup>皆熱病汗出ザルヲ刺ス、<sup>したが</sup>経ニ随イ脈ヲ辨ジテ、其ノ陰陽ヲ調エ其ノ榮衛ヲ和シテ汗ヲシテ出ズルヲ得シム。マタ十二経ノ榮ハ皆身熱ヲ治シ身熱ヲ主ドリ南方ノ火ト為スナリ、故ニ経ニ日ワク、榮ハ身熱ヲ主サドルト、皆刺スベキナリト。

この記述の中で、特に注目すべきは、「<sup>むすぼれ</sup>結」を解いて経絡を通じてやり、その経絡の陰陽を調和させてやれば、発汗して解熱に向かうものであると、見なしていることが明らかな記述であろう。それは証を弁じ脈を診て変動している経脈を把えて、その陰陽・榮衛を調和させるのであると述べている。

注……「経ニ随イ脈ヲ辨ジテ」…これは修字法の表現であるので、「経脈を辨別して…」の意である。

## ロ. (甲乙経…熱病而汗且出 及脈順可汗者、取魚際・太淵・大都・太白・瀉之則熱去、補之則汗出。汗出太甚、取内踝上横脈以止之。注…横脈は三陰交)。

これは「汗が出ているが熱が去らない場合に、魚際・太淵・大都・太白などを瀉してやれば熱が去る」「発汗させて治療すべき状態の場合には、魚際・太淵・大都・太白などの穴を補してやれば発汗が起こって治癒に向かう」「発汗が甚だしくて好ましくないのには三陰交を取穴して止められる」と言うのである。

## ★『素問』水熱穴論第六十一

「……大杼・膺兪・缺盆・背兪・此八者・以写胸中之熱也……」――写胸中之熱

「……氣街・三里・巨虚上下廉・此八者・以写胃中之熱也……」――写胃中之熱

「……雲門・髃骨・委中・髓空・此八者・以写四肢之熱也……」――写四肢之熱

「……五臟兪傍五・此十者・以写五臟之熱也……」――写五臟之熱

注 膺俞～中府穴（王冰）説の他・上胸部の胃経・腎経・任脈の諸穴説あり

背俞～肺俞 氣街～氣衝 髀骨～肩 髓空～脊中第二十一椎下節つまり腰俞

「……岐伯曰・春者木始治・肝氣始生・肝氣急・其風疾・経脈常深・其氣少・不能深入・故取絡脈分肉間……夏者・火始治・心氣始長・脈瘦氣弱・陽氣留溢・熱薰分腠・内至於経・故取盛経分腠絶膚而病去者・邪居浅也・所謂盛経者・陽脈也……秋者金始治・肺將収殺・金將勝火・陽氣在合・陰氣初勝・湿氣及体・陰氣未盛・未能深入・故取俞以写陰邪・取合以虚陽邪・陽氣始衰・故取於合……冬者・水始治・腎方閉・陽氣衰少・陰氣堅盛・巨陽伏沈・陽脈乃去・故取井以下陰逆・取榮以実陽氣・故曰冬取井榮・春不鼫岫・此之謂也。……」

注 王冰および林億の注解より

金將勝火～金王火衰・故云金將勝火

湿氣及体～以漸於雨湿霧露・故云湿氣及体

分腠絶膚～絶謂絶破・令病得出也。

#### ★『靈枢』官鍼第七

「……病在五藏固居者・取以鋒鍼・瀉于井榮分輸・取以四時……」

#### ★『靈枢』終始第九

「……從腰以上者・手太陰陽明皆主之・從腰以下者・足太陰陽明主之。病在上者下取之・病在下者高取之・病在頭者取之足・病在腰者取之膕・……春氣在毛・夏氣在皮膚・秋氣在分肉・冬氣在筋骨・刺此病者・各以其時為齊。故刺肥人者・以秋冬之齊・刺瘦人者・以春夏之齊。……」

「……病痛者陰也・痛而以手按之不得者陰也・深刺之・病在上者陽也・病在下者陰也・癢者陽也・浅刺之・病先起陰者・先治其陰而後治其陽・病先起陽者・先治其陽而後治其陰・……」

#### ★『靈枢』四時氣第十九

「……四時之氣・各有所在・灸刺之道・得氣穴為定・故春取経血脈分肉之間・甚者深刺之・間者浅刺之・夏取盛経孫絡・取分間絶皮膚・秋取経腧・邪在府・取之合・冬取井榮・必深以留之。……」

#### ★『靈枢』寒熱病第二十一

「……春取絡脈・夏取分腠・秋取氣口・冬取経輸・凡此四時・各以時為齊・絡脈治皮膚・分腠治肌肉・氣口治筋脈・経輸治骨髓・五藏。……」

## ★『靈樞』病本第二十五（全文）

「先病而後逆者、治其本。先逆而後病者、治其本。先寒而後生病者、治其本。先病而後生寒者、治其本。先熱而後生病者、治其本。先泄而後生他病者、治其本、必且調之、乃治其他病。先病而後中滿者、治其標。先病而後泄者、治其本。先中滿而後煩心者、治其本。有客氣、有同氣。大小便不利、治其標、大小便利、治其本。病發而有余、本而標之、先治其本、後治其標。病發而不足、標而本之、先治其標、後治其本。謹詳察間甚、以意調之。間者并行、甚為獨行。先小大便不利而後生他病者、治其本也。」

## ★『靈樞』順氣一日分為四時第四十四

「……春生夏長·秋收冬藏·是氣之常也·人亦應之·以一日分為四時·朝則為春·日中為夏·日入為秋·夜半為冬。……」

「……人有五藏·五藏有五變·五變有五輸·故五五二十五輸·以應五時。……」

「……藏主冬·冬刺井·色主春·春刺榮·時主夏·夏刺輸·音主長夏·長夏刺經·味主秋·秋刺合·是謂五變·以主五輸。……」

「……病在藏者·取之井·病變于色者·取之榮·病時間時甚者·取之輸·病變于音者·取之經·經滿而血者·病在胃及以飲食不節得病者·取之于合·故命曰味主合·是謂五變也。……」

## ★『靈樞』五色第四十九

「……青黑為痛·黃赤為熱·白為寒……以五色命藏·青為肝·赤為心·白為肺·黃為脾·黑為腎·肝合筋·心合脈·肺合皮·脾合肉·腎合骨也。……」

1993.12.13 現在·未完